

鳥取県は三徳山に焦点を絞って世界遺産暫定リスト入りの活動を進めてきましたが、少し視野をひろげて山陰の密教寺院に潜む仏教以前の信仰や建築遺産、慈覚大師円仁の足跡、大山隠岐国立公園の自然と眺望景観などを包括的にとらえながら、その「文化的景観」の保全について考える国際シンポジウムを開催します。大山寺（伯耆）・三仏寺（伯耆）・不動院岩屋堂（因幡）・鰐淵寺（出雲）・清水寺（出雲）・焼火神社（隠岐）など山陰各地の密教系寺院の歴史と遺産について考察を加えながら、世界遺産の類例として国内は「紀伊山地の霊場と参詣道」「比叡山（古都京都の文化財）」「石見银山」等、国外は世界遺産登録されたばかりの「五台山」（中国山西省）、世界自然遺産から複合遺産への脱皮をめざす「ハロン湾」（ベトナム）をとりあげ、遺産と景観の価値を相対的に検討します。



眞田 廣幸

1951年生。立正大学文学部卒業（考古学専攻）。倉吉市教育委員会文化財課長

伯耆の山岳信仰

伯耆国と呼ばれた鳥取県の中西部には、古代より霊山として崇敬された大山と三徳山が存在する。前者は、中国地方の最高峰として目を引く存在であるが、後者は急峻な山並みの中に位置する。両山の麓には、それぞれ大山寺と三仏寺が営まれ活発な活動が展開された。この大山と三徳山を中心とした古代における伯耆国の山岳信仰の一端を紹介する。



野本 覚成

1950年生。大正大学大学院博士課程修了（仏教学天台学科）。天台宗典編纂所 編輯長・長昌寺（伯耆町）住職

慈覚大師円仁が残した山陰の仏教

慈覚大師円仁（794～864）は、日本天台宗第三世天台座主で平安初期の高僧。最澄の直弟子であり、最澄後の天台宗を復興した業績が高く評価され、日本最初の大師号が贈られた。最澄・空海没後に入唐求法に派遣され、祖師以後の中国仏教を学んで、仏教弾圧のなか苦難の在唐十年で帰国した。その間に記した『入唐求法巡礼記』は、世界三大旅行記の一つとして知られている。日本全国に慈覚大師創建寺院が多い中、山陰地方にも例外なく創建伝説が多く伝えられている。その伝説に隠された秘密に迫る。



大給 友樹・
今城 愛

1987年生・1986年生。鳥取環境大学環境デザイン学科在学中・鳥取環境大学大学院環境デザイン領域在学中

石窟寺院への憧憬

—岩窟／絶壁型仏堂の類型と源流—

隠岐・出雲・伯耆・因幡の密教系諸山には、三仏寺投入堂に代表される懸造仏堂のほかに、岩窟・岩陰に石仏・石塔等を祀る素朴な仏堂が少なくない。これらを「岩窟／絶壁型仏堂」と総称して、おもに空間構造の特性から類型化を試みるとともに、中国の初期石窟寺院や懸造寺院との比較を通して、「8世紀以前に成立した初期山岳仏教の岩窟／絶壁型仏堂が南北朝初唐ころの中国石窟寺院のミニチュア」である可能性について検討したい。



楊 鴻勳

1931年生。清華大学卒業（建築系）。中国社会科学院考古研究所教授・中国建築史学会 理事長

中国五台山の仏教建築と文化的景観

円仁が滞在した中国仏教の聖地「五台山」は世界複合遺産の登録をめざしていたが、自然遺産の申請は頓挫し、2009年に世界文化遺産に登録された。五台山の仏教は後漢時代にまで遡る。インドの霊鷲山に似た山の前方に「大孚靈鷲寺」を建立したのが始まりとされる。今の顯通寺である。五台山の台懷鎮周辺にはこのように由緒の古い寺院が集中しており、今も中国仏教とチベット仏教の拠点として参詣者が絶えない。また周辺には、中国最古の木造建築である南禅寺大殿と仏光寺大殿（いずれも唐代）が残っている。五台山の仏教史を概観しつつ、これらの世界遺産建築について紹介する。



平澤 毅

1967年生。東京大学大学院修士課程修了（農学系研究科）。奈良文化財研究所遺跡整備研究室長

文化的景観と世界遺産

—「紀伊山地の霊場と参詣道」「石見银山」「平泉」などの事例から—

世界各地には様々な遺産があり、先人から受け継ぎ、未来へ引き継ぐべく、それぞれの地域に生きる人々の絶え間ない努力が注がれている。そんな思いをみんなで協力して実現していく取組において、今日の「世界遺産」はとても象徴的な存在である。中でも「文化的景観」は、人々と地域の「繋がり」や「縁」に注目して地域の遺産を理解しようとするスキームで、建造物や遺跡と比べれば、まだ始まったばかりと言える。しかし、遺産としての山岳信仰を考えると、その大切さをどう把握し、表現したらよいかということに、とても肝心なヒントをもたらしてくれる。文化的景観として世界文化遺産に登録されている日本の遺産などを交え、これまで検討されてきた世界遺産における文化的景観の考え方をとお話する。



浅川 滋男

1956年生。京都大学大学院博士課程修了（建築学専攻）。鳥取環境大学建築・環境デザイン学科教授・同大学院研究科長（環境デザイン領域 教授）

複合遺産としての大山・隠岐・三徳山

—世界自然遺産ハロン湾との対比を含めて—

大山は昭和11年に国立公園に指定され、昭和38年に隠岐・島根半島・三瓶山・蒜山を含めて「大山・隠岐国立公園」と改名した。国立公園のエリアはまさに山陰における自然の至宝であると同時に、密教・修験道・神道など山岳信仰の聖地でもある。一方、三徳山は国宝投入堂をはじめ、宗教・建築遺産の宝庫であるが、それは豊かな山の自然を背景に形成されたものである。すなわち、大山・隠岐・三徳山は自然と文化の両面から評価すべき複合遺産と言えよう。ベトナムの世界自然遺産ハロン湾の問題と絡めながら、複合遺産と文化的景観について論じる。



中原 斉

昭和34年生。國學院大学文学部史学科卒業（考古学専攻）鳥取県教育委員会文化財課 歴史遺産室長 第Ⅱ部司会者

事務局

鳥取環境大学 建築・環境デザイン学科 浅川研究室
TEL & FAX：0857-38-6775 e-mail：asax@kankyo-u.ac.jp
<http://misc.kankyo-u.ac.jp/~asax/index.html>

会場：倉吉未来中心 セミナールーム3

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町212-5 倉吉パークスクエア内

